

(様式1)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」
平成27年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名 (推進地域)	秋田県	番号	05
-----------------	-----	----	----

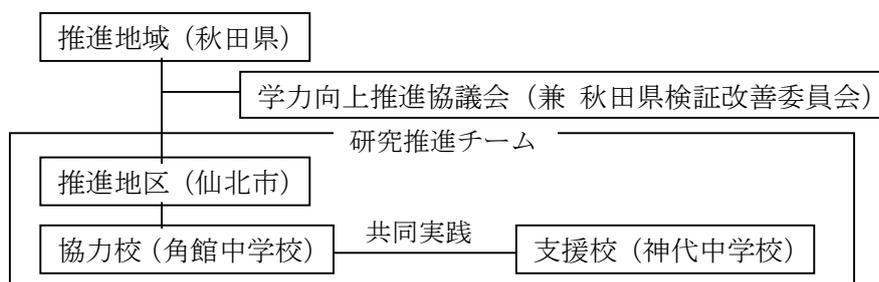
市町村名 (推進地区名)	協力校名	児童生徒数
仙北市	角館中学校	299

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

- ・本県の課題の一つである中学校における共同研究体制の確立、指導方法や指導体制の工夫、指導力の向上に資する教員研修の充実を目指した実践研究を進めるために、学力向上推進計画(秋田県事業実施要項)を策定するとともに、図1のような体制を構築した。

図1



- ・学力向上推進協議会(兼 秋田県検証改善委員会)において、推進地区及び協力校の研究推進について検証するとともに、指導・助言を行った。
 - ・「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」に照らして、学力向上において成果を上げている学校の取組例について、学力向上推進協議会の場で情報提供を行った。
- ※「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」とは、全国学力・学習状況調査の本県の結果について、秋田県検証改善委員会が、安定した成果を上げている学校や課題の改善が顕著な学校の特長を分析し、学力を支える関連因子について次のようにまとめたもの

- | |
|--|
| I 全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制によるPDC Aサイクルの確立 |
| II 子どもたちが安心して学習できる環境づくり |
| III 子どもたちの思考を促し深める授業づくり |
| IV 自発的学習を生み出すきめ細かな指導の充実 |
| V 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携 |

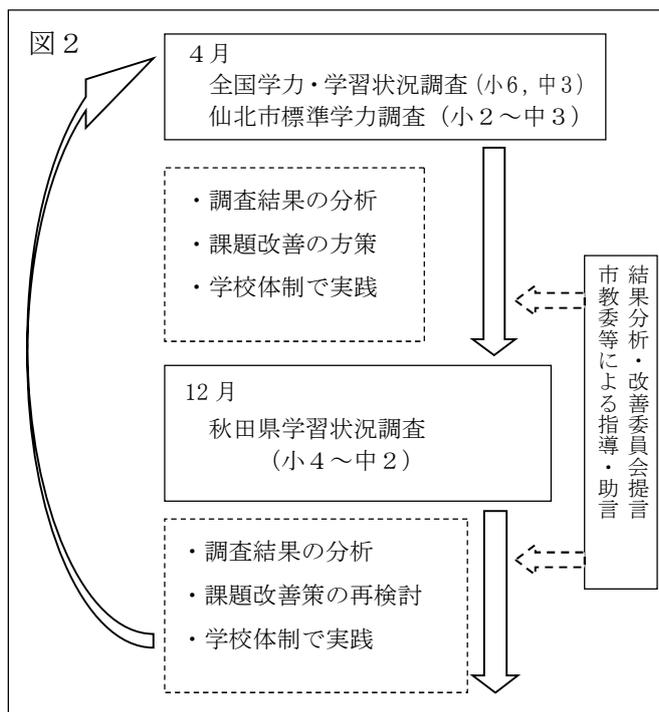
- ・県教育委員会の指導主事等が協力校を複数回訪問し、研究の方向性及び生徒の実態とその変容、授業改善の状況等に対して指導・助言を行った。特に授業改善については、各教科の特質を踏まえた学力向上の視点で、具体的な手立てについて指導・助言した。

2. 推進地区における取組

推進地区は協力校と共に、秋田県検証改善委員会が提唱している「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」の中から当該地区及び当該校が抱える課題の解決につながる視点としてⅡ及びⅢを選択し、それらの具現に向けた取組を進めた。また、全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の結果を活用するなどして成果について検証した。

推進地区においては、主に次のような取組を行った。

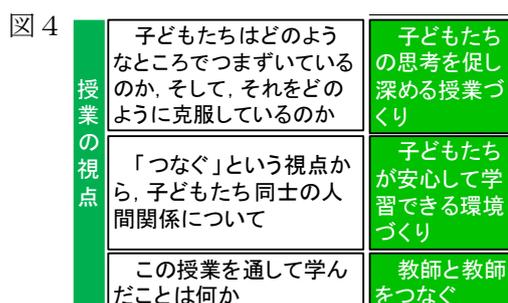
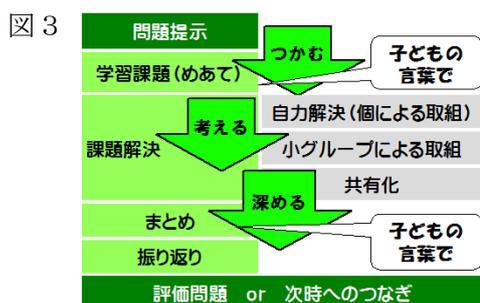
- ・協力校の授業研究会等に指導主事を派遣し、研究・実践の進捗状況を把握するとともに、研究課題への取組等について指導・助言を行った。
- ・協力校の角館中学校に加え、支援校として神代中学校を指定し、協力校と支援校が相互に連携・協力して研究を推進する体制を整えた。
- ・全国学力・学習状況調査については、実施後すぐに自校で採点・分析し、学校体制で速やかに課題改善に取り組めるようにした。
- ・市内全小・中学校の研究主任、国語、算数・数学、理科担当教員で構成した委員会で、全国学力・学習状況調査等の結果について分析し、具体的な改善策等についての提言を行った。特に、協力校及び支援校には分析結果等について詳しく情報提供し、今後の取組について指導・助言した。
- ・小学校第2学年～中学校第3学年を対象に仙北市標準学力調査を実施し、学習状況のきめ細かな把握に努めた。また、秋田県学習状況調査と共に検証改善サイクルに位置付け(図2)、調査結果から捉えた課題や改善の方策等を提言し、学校体制での授業改善の推進について指導・助言した。



3. 協力校における取組

(1) 「聴く、つなぐ、学び合う」授業の追究

- ・課題解決型の授業展開を目指し、自校の実情を踏まえて決定した目指す1単位時間の授業の流れ(図3)を全教職員で共通理解し、共通実践を進めた。
- ・授業研究会を通じた同僚性の構築を目指し、全教職員による授業改善をより効果的に進めるために、教科の枠を超えた内容で授業の視点(図4)を設定した。



(2) 健全な「心力」と「体力」を基盤とした「知力」の向上

① 学年生徒会及び全校生徒会を中心とした日常的な取組

- ・生徒の主体性を重視した活動として、集会活動の計画的な実施、5分間走の継続等に取り組んだ。
- ・生徒自身が家庭学習の必要性に気付き、家庭学習の習慣形成につなげるため、委員会活動と連携を図って家庭学習調査を実施した。

② 学校間協力体制の強化

中学校区内小学校3校との小中連携、隣接する神代中学校との中中連携、県立角館高等学校との中高連携を機能させ、効果的に進めるようにした。

[取組の具体例]

- ・5月 第1回連絡協議会（校長・教頭・研究主任など各校から5名ずつの参加）
- ・8月 連携の会（小学校3校・中学校2校の全職員が「授業研究班」「表現活動班」「深化・補充班」の3班に分かれて研修）
- ・9月 中高学習指導研究協議会（中高ともに5教科ずつの提案授業）

○ 実践研究の成果

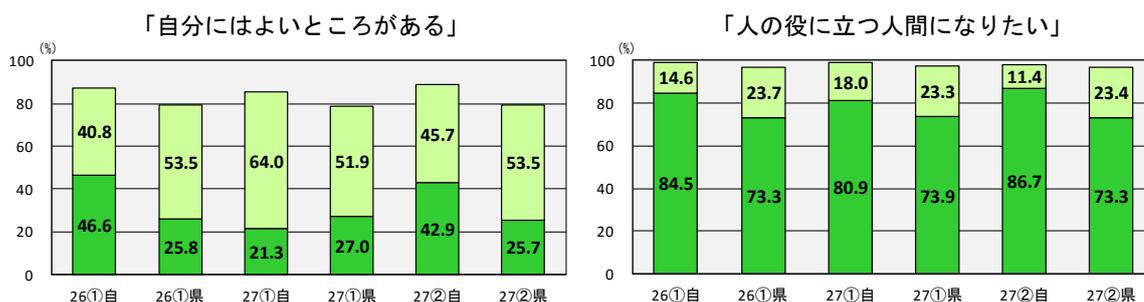
1. 協力校における取組の成果

(1) 「心力・体力・知力」の向上について

- 相手意識を大切にされた発表活動を実現することにより、「聴く、つなぐ、学び合う」ための基盤となる、相手の話を最後まで聴く習慣が定着した。また、自己有用感や相手を思いやる心の醸成につながった。
- 主体的に「体力づくり」に取り組む意欲や持久力の向上が図られた。
- 家庭学習への取組状況が改善した。

【成果につながる調査結果】

① 「心力」の向上に関して（秋田県学習状況調査生徒質問紙の結果から）



※横軸の項目：左から順に年度，○数字は学年，自校平均・県平均の別（「26①自」と「27②自」は同一集団）

※グラフ内の数字：下から順に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の値

② 「知力」の向上に関して（家庭学習調査の結果から）

- ・家庭学習の取組時間が、しだいに長くなった。

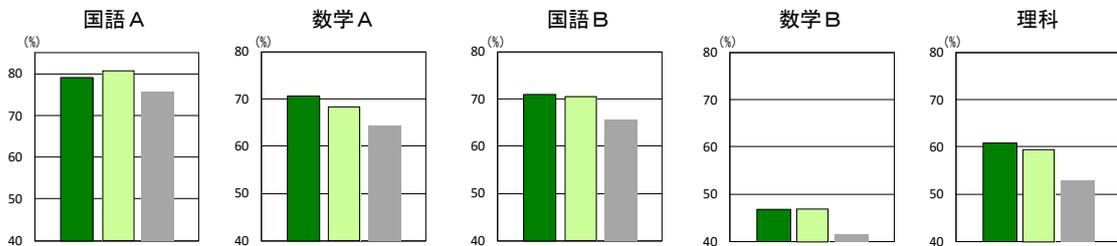
期間内の平均学習時間：単位は分								
第1回家庭学習調査結果			第2回家庭学習調査の結果			第3回家庭学習調査の結果		
学級名	学級平均	学年平均	学級名	学級平均	学年平均	学級名	学級平均	学年平均
1年A組	87.8	88.5	1年A組	105.7	102.7	1年A組	124.6	140.3
1年B組	84.0		1年B組	91.8		1年B組	141.2	
1年C組	97.7		1年C組	112.0		1年C組	164.1	
2年A組	95.4	90.8	2年A組	101.6	100.6	2年A組	136.8	124.2
2年B組	105.6		2年B組	118.8		2年B組	142.7	
2年C組	88.3		2年C組	85.7		2年C組	110.5	
2年D組	73.9		2年D組	106.8		2年D組	126.3	
3年A組	109.2	98.5	3年A組	120.8	107.6	3年A組	142.3	143.8
3年B組	115.2		3年B組	106.0		3年B組	166.5	
3年C組	88.6		3年C組	110.2		3年C組	130.6	
3年D組	83.7		3年D組	95.4		3年D組	128.7	

(2) 生徒の「学習力」の向上について

- 各種調査で捉えられる学習の定着状況については、県の平均と同程度あるいはそれを上回るまでに改善された。
- 主体的に学習に取り組むスキルや意欲の向上が確認できた。

【成果につながる各種調査の結果】

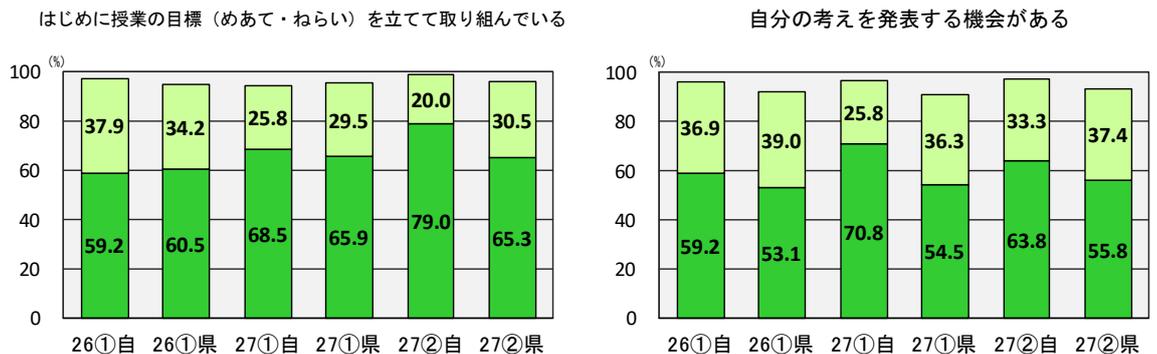
- ① 基礎的・基本的な知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力等の向上に関して
 [全国学力・学習状況調査（平成27年4月実施）の結果から]

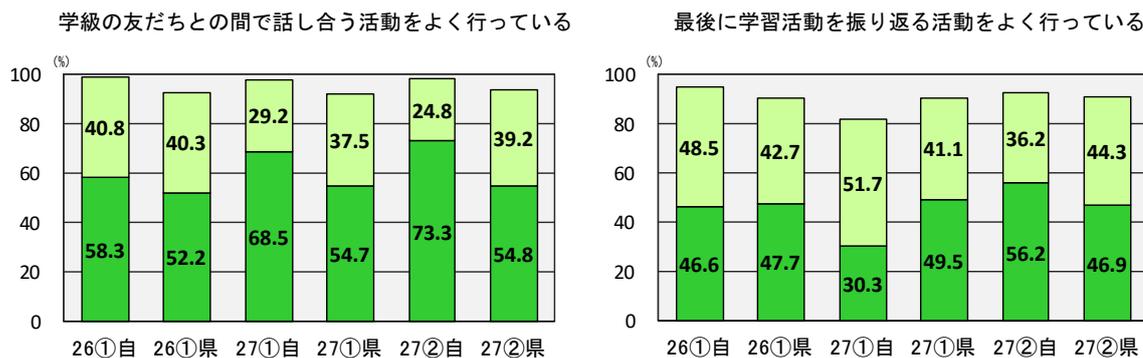


※グラフは、左から自校，県，全国の平均正答率

② 主体的に学習に取り組む態度の向上に関して

[秋田県学習状況調査（平成27年12月実施）生徒質問紙の結果から]





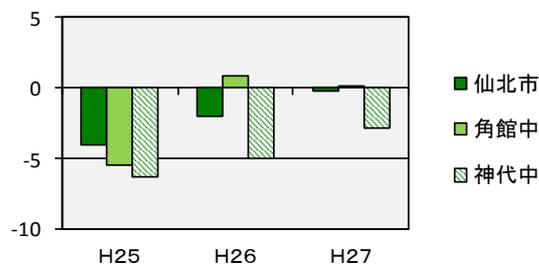
※横軸の項目：左から順に年度，○数字は学年，自校平均と県平均の別（「26①自」と「27②自」は同一集団）

※グラフ内の数値：下から順に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の値

2. 実践研究全体の成果

- ・推進地区においては協力校に加えて支援校を指定して取組の充実及び普及を支援するとともに、協力校においては各教科を貫く共通実践事項に基づいた授業改善の取組と、研究協議等を通じた全教職員による検証改善の取組を進めるなど、中学校における共同研究の効果的な推進に係る事例を得ることができた。
- ・推進地区及び協力校においては、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査を学力向上に向けた検証改善サイクルの中に位置付け、調査結果を分析することにより、主体的に学習に取り組む意欲や学習の定着状況に係る成果と課題について、多面的・客観的に把握することができた。
- ・推進地区の全国学力・学習状況調査の結果については、協力校を中心とした取組を通して、地区の中学校全体の平均正答率が上昇した。
- ・推進地区及び協力校の取組を通して、「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」のⅡ及びⅢについて検証することで、学力向上のための関連因子としての妥当性を確認できた。

全国学力・学習状況調査における
県平均正答率との差の推移



3. 取組の成果の普及

- ・平成27年10月に、推進地区主催による協力校の公開授業研究会を行い、成果等の中間報告を行った。県内外からおおよそ190名の参加があった。
- ・「第30回秋田県教育研究発表会」において、協力校が2年間にわたる研究の取組を発表し、参加者との意見交換等を通して研究成果を客観的に捉えるとともに、広く発信した。
- ・本研究に係る取組等をまとめた実践事例集を発行し、県内各小・中学校等に配布するとともに、県公式Webサイトに掲載した。

○ 今後の課題

- ・推進地区及び協力校による取組を踏まえ、本県の学力向上推進計画をより実効性の高いものになるよう見直すこと。
- ・本研究の成果について、各種事業や学校訪問指導等の機会を利用するなどして普及を図り、学力向上に向けた県内各学校の実態に応じた取組を支援すること。

(様式2)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」
平成27年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名 (推進地域)	秋田県	番号	05
-----------------	-----	----	----

市町村名 (推進地区名)	仙北市
-----------------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1. 研究課題

(1) 児童生徒が積極的に授業に参加できる学校空間づくりの推進

個に応じた授業の展開や温かい児童生徒理解、きめ細かな生徒指導の推進等により、児童生徒の自己有用感を高め、積極的に授業に参加できる学校空間づくりを推進する。

(2) 児童生徒の思考を促し深める授業づくりの推進

各小・中学校が全校体制で授業改善に取り組み、学習課題の解決へ向けて児童生徒が自ら考え、学び合うことにより、思考を促し深める授業づくりを推進する。

2. 研究課題への取組状況

(1) 実施体制

① 仙北市教職員の集い

毎年4月に仙北市内の教職員が一堂に会しての「仙北市教職員の集い」を開催し、本市の「学校教育の重点」や「学力向上施策」等について共通理解を図り、市内の全小・中学校12校が一体となった取組を推進している。

また、協力校である角館中学校が1年目の研究・実践等について発表し、取組や成果等に関して市内小・中学校への浸透を図る機会とした。

② 仙北市教育研究会

平成17年度より「仙北市教育研究会」を発足させ、授業公開や研究協議会等を実施している。また、教科等の研究委員会・部会も組織し、教職員の研修を深める機会としている。



仙北市教職員の集い

③ 協力校、支援校の指定

協力校の角館中学校の他に、平成 27 年度からは新たに支援校として神代中学校を指定し、協力校、支援校が相互に連携・協力して研究を推進する体制をとっている。

(2) 児童生徒の思考を促し深める授業づくりの推進

① 市指導主事による指導・助言

授業研究会等に市指導主事を派遣し、授業改善等についての指導・助言を行っている。協力校・支援校についても、研究・実践の進捗状況を把握するとともに、研究課題への取組等について指導・助言を行っている。



仙北市教育研究会研究大会研究協議会

② 仙北市教育研究会研究大会の開催

研究テーマ「自ら問いを発する子どもの育成～9年間の系統的な指導の在り方の工夫～」の下に、授業公開や研究協議、会場校の研究・実践発表等を行っており、貴重な情報交換の場となっている。

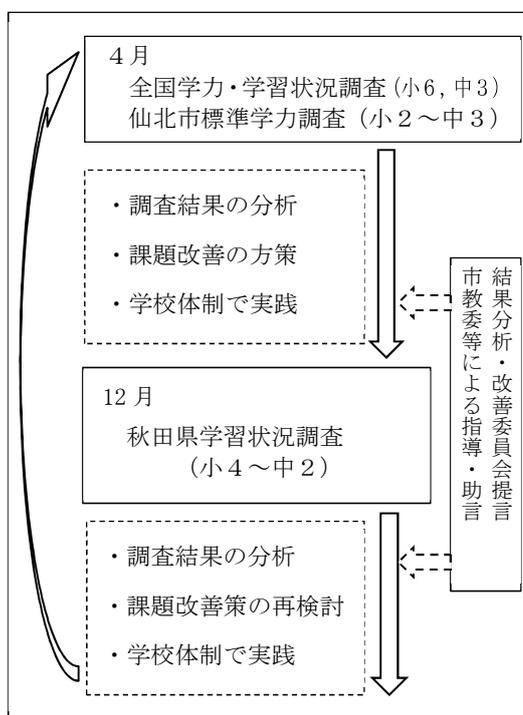
平成 27 年度は、協力校による自主公開研究会を本研究大会と兼ねて開催し、学力向上の取組や成果等を市内全教職員が共有するとともに、県内外に広く発信することができた。

③ 各種調査を活用した学力向上の取組

4月の全国学力・学習状況調査の他に、小2～中3を対象に仙北市標準学力調査を実施し、きめ細かな学習状況の把握に努めている。

特に、全国学力・学習状況調査については、実施後すぐに自校で採点・分析し、学校体制で速やかに課題改善に取り組むようにしている。

また、12月の秋田県学習状況調査と共に検証改善サイクルに位置付けるようにし、調査結果から捉えた課題や改善の方策等を提言し、学校体制でのPDC Aサイクルによる授業改善等の推進について指導・助言を行っている。



④ 仙北市結果分析・改善委員会による提言

市内全小・中学校の研究主任，国語，算数・数学，理科担当教員で組織し，全国学力・学習状況調査等の結果について分析・協議し，今後の具体的な改善策等についての提言を行っている。特に，協力校・支援校には分析結果等について詳しく情報提供をするとともに，自校の分析結果を生かした今後の取組等についての指導・助言を行っている。



仙北市結果分析・改善委員会

⑤ 仙北市教育研究集録の刊行

市内各校の授業研究会の学習指導案や研究協議会記録、成果と課題等を冊子にまとめて刊行し、各校の取組等の情報共有を図っている。

(3) 児童生徒が積極的に授業に参加できる学校空間づくりの推進

① 仙北市子どもサミット

年2回、市内の児童会・生徒会の代表者が一堂に会し、各校に共通する課題やその解決のための取組等についての意見交換の場を設けている。自分たちの学校生活やふるさと仙北市をよりよいものにするために、市内12校が協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度の育成に努めている。



仙北市子どもサミット

② 生徒指導研修会

温かい児童生徒理解ときめ細かな生徒指導の推進を目的に、市内小・中学校の生徒指導主事を対象とした研修会を開催し、児童会・生徒会が主体となったいじめの防止の取組や情報モラル教育等についての研修を行っている。

③ 北浦SENネット連絡会議（SEN=Special Education Needs）

特別な支援が必要な児童生徒と関わっている教員、関係者、関係機関の職員が連携して情報交換やケース会議等を行い、有効な支援方法を研修する事を目的として、平成26年度に「北浦SENネット連絡会議」を設立し、毎月定期的開催し、研修を継続している。

④ JFAこころのプロジェクト「夢の教室」

JFA（日本サッカー協会）が、日本や世界で活躍するアスリートを学校に派遣し、子どもたちに夢に関する授業を実施するものであり、市内小学校5年生を対象に実施している。

(4) 家庭・地域への働きかけや情報発信

① 教育委員会だより「きたうら」の発行

毎月1回発行している教育委員会だよりには、学力向上等に関する各学校や市教育委員会の取組等を掲載し、市内全戸に配布し、周知・啓発を図っている。

② 仙北市ホームページによる広報

仙北市公式ホームページには、仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会が作成した報告書を掲載し、本市児童生徒の学力調査の結果や改善策等について広く周知を図っている。

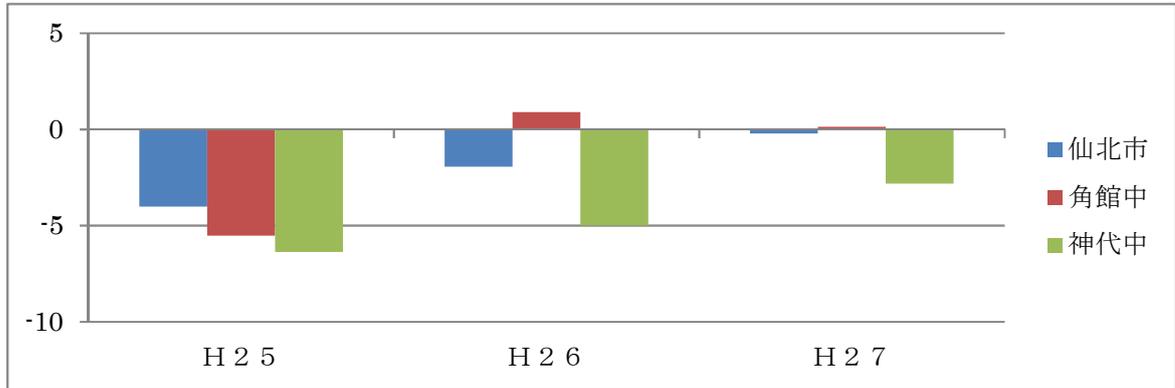


教育委員会だより「きたうら」

3. 実践研究の成果の把握・検証

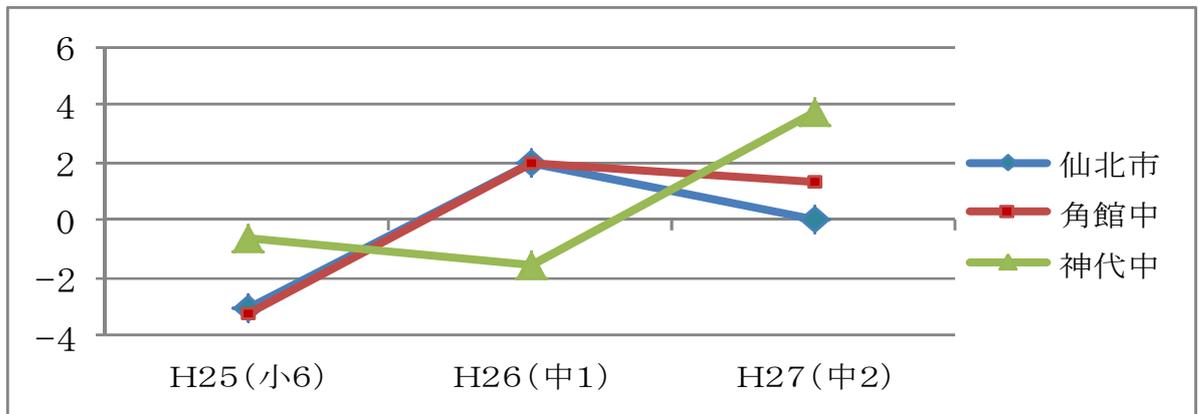
(1) 各種調査における成果

本市は、全国学力・学習状況調査において、全国平均は上回るが、秋田県平均は下回る状況が続いていた。しかし、グラフ1のように全国学力・学習状況調査の角館中学校、神代中学校、仙北市の平均を県平均と比較したところ、協力校の角館中学校、平成27年度から指定を受けた支援校の神代中学校とともに改善がみられ、仙北市全体の平均も向上し、県平均に並ぶことができた。



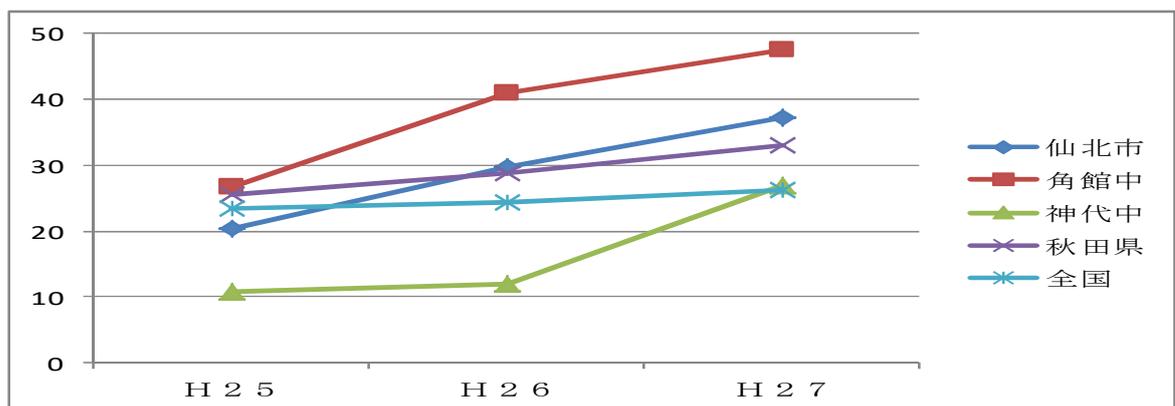
グラフ1 県平均との差の推移 (中学校3年)

また、グラフ2からは、同一集団の秋田県学習状況調査の平均と県平均との差の推移の比較においても、研究・実践の推進とともに確かな学力の向上が読み取れた。



グラフ2 県平均との差の推移 (同一集団)

さらに、グラフ3からは、全国学力・学習状況調査の質問紙の「自分にはよいところがある」の問いに「当てはまる」と答えた生徒の割合においても自己有用感の向上がみられた。



グラフ3 自己有用感の状況 (中学校3年生)

(2) 公開研究会における成果

県内外から参加した190名の参加者からは、「生徒の疑問や日常体験、つぶやきを生かした学習課題の設定、教師と生徒との良好な関係、学習意欲がすばらしかった」「伝え合う力を育てる工夫など、たいへん参考になった」などの肯定的評価をいただいた。

4. 今後の課題

本事業における協力校、支援校による連携した取組が他校にもよい刺激となって波及し、結果として仙北市の中学校全体の学力の向上を図ることができた。今後は、このような取組や成果を更に仙北市全体に波及させることが課題と考える。

そこで、次のような取組を通して本事業で得られた成果を更に充実させ、確かな学力の育成に向けて市教育委員会が一層のリーダーシップを発揮していきたい。

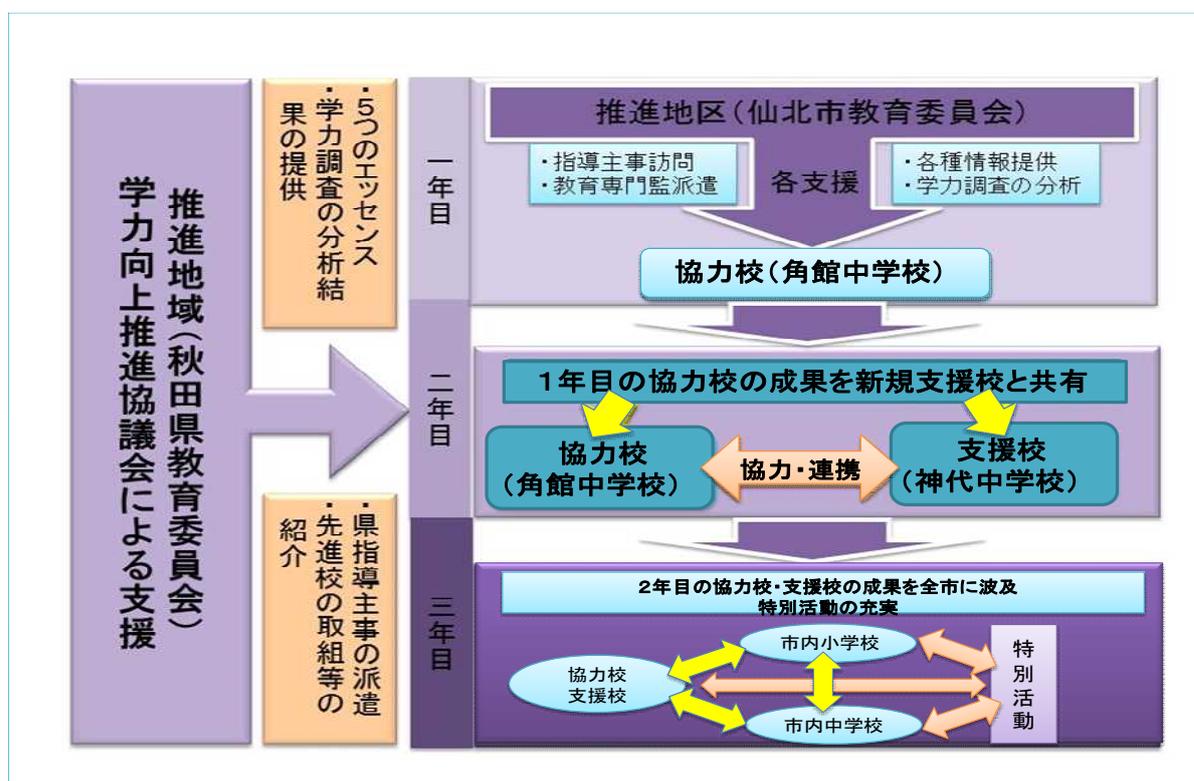
(1) 市教育研究会の更なる充実

本事業の成果を生かし、一人一人の思考を深める授業づくりの更なる推進を目指し、平成28年度は小学校を会場に研究大会を開催し、小学校への成果の波及も図っていききたい。

(2) 協力校・支援校の取組と特別活動を核とした研究の推進

平成27年度、角館小学校が教育課程研究指定校事業（特別活動）の指定を受け、研究・実践に取り組み、中間公開研究会を開催している。平成28年度は、4月の「仙北市教職員の集い」で角館小学校の研究の取組や成果等について発表する機会をもつとともに、11月には公開研究会の開催も予定している。

そこで、平成28年度からは、協力校・支援校の学力向上へ向けた研究・実践の市全体への更なる波及とともに、特別活動の充実による主体的・実践的な態度の育成にも市全体で取り組んでいきたい。



【調査・研究推進のイメージ図】

(様式3)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」
平成27年度委託事業完了報告書
【協力校】

都道府県名 (推進地域)	秋田県	番号	05
-----------------	-----	----	----

協力校名	秋田県仙北市立角館中学校
------	--------------

1. 協力校における学力に関する課題

(1) 平成26年度秋田県学習状況調査の結果から、県の平均通過率を100としたときの各教科の通過率が次のようになり、教科による指導のばらつきが大きいという課題がみられた。

	国語	社会	数学	理科	英語
平成26年度 2年生	103.0	86.5	105.6	97.3	98.9
平成26年度 1年生	106.9	105.6	105.4	94.1	101.9

(2) 全国学力・学習状況調査質問紙に関連する、平成26年度秋田県学習状況調査質問紙の項目に着目すると、生徒の肯定的評価(「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」)が県平均を下回るものがあり、生徒の主体的な学習活動が不十分であるという課題がみられた。

	H26・2年生	県平均	H26・1年生	県平均
○ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う	91.1	91.8	96.1	92.1
○ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う	87.2	91.4	99.1	92.4

(3) 平成26年度の教師の意識調査の結果から、次に示すように「学力」の3要素全てに課題がみられた。

○基礎的・基本的な知識や技能の定着状況に個人差が大きい。
○根拠を基に、自分の考えを説明する力が不十分である。
○グループでの学び合いの成果を全体に向けて表現しようとする意欲が不十分である。

2. 協力校としての取組状況

(1) 「聴く、つなぐ、学び合う」授業の追究

- ① 市松模様の男女4人構成を ② 課題解決型の授業提示 ③ 同僚性の構築を目指した

基本とするグループによる、
コの字型形態の日常の実践



留意事項	「学び合い」に耐えうる、作業的活動を含む課題の提示と教材開発
	生徒と生徒、生徒と教材、教材と教師をつなぐ工夫
	教科の特性に配慮する
	簡単に自力解決できるような課題は設定しない
	課題解決の過程での「学び合い」を成立
	「学び合い」の充実のために重視すべきは
	小グループによる取組
	共有化

校内授業研究会

授業の視点	教科の枠を越えて	一人一授業
	子どもたちはどのようなところでつまづいているのか、そして、それをどのように克服しているのか	子どもたちの思考を促し深める授業づくり
	「つなぐ」という視点から、子どもたち同士の人間関係について	子どもたちが安心して学習できる環境づくり
	この授業を通して学んだことは何か	教師と教師をつなぐ

④ 目指す1単位時間の授業の流れと授業風景



【課題設定】



【小グループによる取組】



【共有化】

(2) 健全な「心力」と「体力」を基盤とした「知力」の向上

① 学年生徒会及び全校生徒会を中心とした日常的な取組

ア 集会活動の計画的・継続的な実施



【300人全員に集団を前にしての発表活動を】



イ 5分間走の実施



【体育委員会を中心に】

ウ 「家庭学習調査」の実施

※ 目標時間 1年生80分間 2年生90分間 3年生100分間

※ 朝の学活で書きましょう。

例	曜日	学習内容	時間(分)
8月24日	月	宿題(英語・数学)	120
8月25日	火	宿題(英語・数学)	106
8月26日	水	宿題(英語・数学)	96
8月27日	木	宿題(英語・数学)	108
8月28日	金	宿題(英語・数学)	121
8月29日	土	宿題(英語・数学)	92
8月30日	日	宿題(英語・数学)	81
8月31日	月	宿題(英語・数学)	153
9月1日	火	宿題(英語・数学)	169
9月2日	水	宿題(英語・数学)	259

前学期期末テストに向けた家庭学習の状況について、家の人から感想を書いてもらいましょう。

主教科をみんなとくずしていいので、得意教科の差をいじりながら、自分の得意科目を得意にしたい人は、教員に相談してください。

② 学校間協力体制の強化

ア 中学校区内小学校3校との小・中連携

イ 隣接する神代中学校との中・中連携

ウ 角館高等学校との中・高連携

エ 仙北市教育研究会との連携

- 5月11日(月) 第1回連絡協議会(校長・教頭・研究主任など小3校・中2校から5名ずつ)
- 8月19日(水) 連携の会(小学校3校・中学校2校の全職員が3班に分かれて研修)
- 9月1日(火) 中高学習指導研究協議会(中高ともに5教科ずつの提案授業)
- 10月23日(金) 自主公開研究会に仙北市教育研究会員160名と県内外から30名が参加

○ 「授業研究班」の取組

共通実践項目
「学び合いのある」授業を目指す
キーワード・追究に耐える課題
・聴く
・グループ学習

○ 「表現活動班」の取組



○ 「深化・補充班」の取組



【お互いの授業を見合う】

【学校行事を小学生が参観】

【1年生の一人勉強ノートを小学生に紹介】

③ 諸機関との連携強化と地域の人材活用

ア 「先輩と語る会」の開催

イ 進路学習の系統化

ウ 総合的な学習の時間の充実



【地域とともに生きる心構えを】



- 1年 ●秋田市職場訪問
●国際教養大学訪問
- 2年 ●職場体験活動
●専門学校訪問(修学旅行)
- 3年 ●高校体験入学・学習体験
●大学訪問と専門学校訪問
●秋田市内の高校教諭(進路担当)の講話

【上級学校や職業から
目指すべき将来像を】



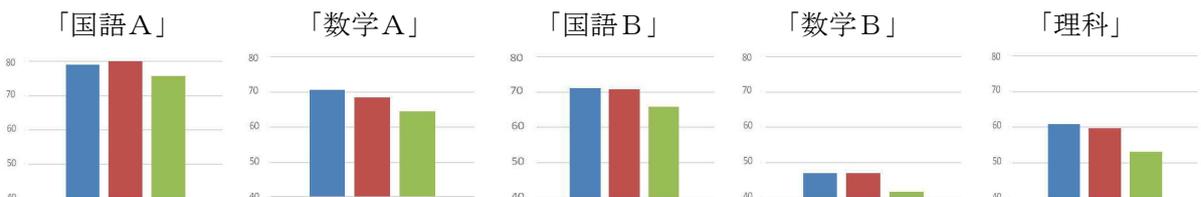
【地域への誇りと愛情を】

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着及び思考力、判断力、表現力等の向上について

○同僚性の構築を基に、教科の別なく全校体制での指導を行ったことにより、各調査で捉えらる「学力の3要素」の定着状況については、県平均あるいはそれを上回るまでに改善された。

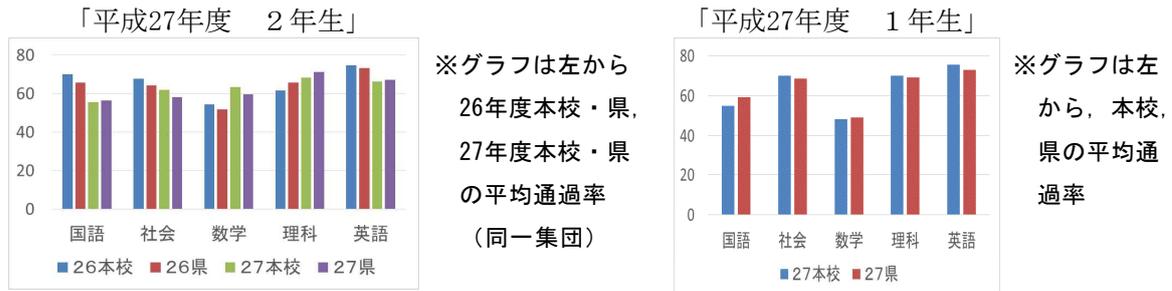
① 全国学力・学習状況調査(平成27年4月実施)の結果から



※グラフは、左から本校、県、全国の平均正答率

・全ての教科で全国の平均正答率を上回り、ほぼ県の平均正答率と同じである。

② 秋田県学習状況調査（平成27年12月実施）の結果から



・県の平均通過率を100としたときの、本校の通過率が95を下回ったのが1教科、105を上回ったのが2教科となり、ほぼ県の平均通過率と同じである。

(2) 主体的に学習に取り組む態度の向上について

- 課題解決型の授業提示を心がけてきたことにより、生徒が主体的に学習に取り組むために必要なスキルや意欲の向上が確認できた。
- 市松模様の男女4人構成を基本としたグループによる、コの字型形態を日常的に実践してきたことで、生徒の96.5%が「小グループでの学び合い」を肯定的に捉えている。（学校評価）

・秋田県学習状況調査質問紙（平成27年12月実施）の結果から

※表中の数字は「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の合計（%）
 ※太字は本校、「平成26年1年本校」と「平成27年2年本校」は同一集団

	平成26年 1年本校	平成26年 1年全県	平成27年 1年本校	平成27年 1年全県	平成27年 2年本校	平成27年 2年全県
はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいる	97.1	94.7	94.3	95.4	99.0	95.8
自分の考えを発表する機会がある	96.1	92.1	96.6	90.8	97.1	93.2

(3) 「求めて学ぶ生徒」の姿の具現化について

○授業において、「根拠を基に説明する」、「学んだことを生かす」生徒の姿がみられた。

「1年国語」

「1年理科」

・全ての生徒が真剣に課題に取り組み、自分の仮説を検証するために、根拠となる資料を明らかにして説明したり、「振り返り」に自分の学んだことをまとめ、生活と結び付けて捉えたりしている記述がみられた。

4. 今後の取組

研究を終えて、「9年間のスパンで児童・生徒を育てる意識の向上」、「キャリア教育における小・中の連携強化」などの課題が明らかとなった。そのため、今後は「児童生徒への系統的な指導を目指した学校間協力体制の強化」を図りたいと考えている。

また、全校体制で授業改善に取り組んだことにより、「課題解決型の授業を基にした基礎的・基本的な知識や技能を習得させるための取組の充実」、「各教科における、ねらいに迫るための言語活動の共通理解」、「学びの連続性による主体的な学習活動に結び付く、まとめやノート指導の充実」などの課題が明らかとなった。そのため、今後は「教科の枠を超えた取組の在り方を検討する教科主任会の開催」に向けた準備を行っていきたいと考えている。